令和7年7月2日（水）　日本海新聞

浜坂高硬式野球部

村岡高硬式野球部

第107回全国高校野球選手権
夏に挑む
兵庫大会
⑪下

手を携え勝利目指す

浜坂・村岡合同チーム

浜坂、村岡両校の合同チーム結成は昨年の秋。3年生の引退などで部員が減った両チームが、互いを補うべく歩み寄った。平日は一緒に練習はできないものの、週末に練習試合を繰り返し、相互理解と連携を深めた。両校の選手が手を携え、初戦勝利を目指す。

合同チームと浜坂の主将を務める浅田は、合同チームの特長を「打つチーム」と言い切る。春季地区大会は2回戦で敗れたが、初戦を11－9で競り勝った。ミート力が高く三振が少ない浜坂の小林壮に、村岡の主将で主砲の白岩が加わり、打線に厚みが出た。

投手陣の要は、浜坂のエース右腕の小林壮。制球力があり、直球で押しながらスライダーやスプリットなど変化球で三振が取れる。浜坂の森本陽介監督は「先発の小林で押し切るのも視野に入れているが、試合では継投策も念頭にある」と話す。

合同チームの第一目標は初戦突破だが、浜坂、村岡それぞれで1勝に懸ける思いは異なる。

浜坂は、単独で出場した昨夏大会で初戦を突破。今夏も初戦突破とその先を狙う。浅田は「3年生が悔いのないように全力で達成したい。策より気持ちで頑張り、チームワークで戦う。絶対に勝つ」と意気込む。

村岡は、昨夏大会は部員不足で出場を見送った。念願の大会出場に、選手の意気は高い。白岩は「独特の緊張感を楽しみながら勝ちに行く」と気合十分。合同チームの部長を務める福村涼太監督は「まずは1勝。初めての舞台だが、おじけづかず自分のプレーをしてほしい」とエールを送る。

（岡村博、安部航太）

投	小林	壮	③	浜坂
捕	黒坂	颯斗	③	夢が丘
一	白岩	澄空	②	関宮学園
二	◎浅田	唯生	③	浜坂
三	吉田	雄哉	③	夢が丘
遊	山崎	悠太	③	浜坂
左	中井	嘉人	③	夢が丘
中	鶴田	陽大	③	浜坂
右	中村	悠翔	③	夢が丘
	山本	悠陽	②	夢が丘
	平松	頌惟	②	関宮学園
	浜田	春太	②	夢が丘
	古岡	俊亮	②	小代
	小林	旺翺	①	浜坂
	杉岡	真聡	①	夢が丘
	井上	竜吾	①	小代
	中尾	敵介	①	浜坂
	中家	哲兵	①	浜坂
	池成	暖大	①	浜坂
	阪下	航一	①	嘉楽

▽部長　福村涼太（村岡）
▽監督　森本陽介（浜坂）
（メンバー表は守備位置、氏名、学年、出身中学の順、◎は主将）